

～M&Kの2大事業（鉄道部品修繕）解説～

バスだけじゃないよ!!
機関車エアコンと
鉄道部品修繕



「電気式窓拭き器」
いわゆるワイパー。
雪国では回転して雪を飛ばす
旋回窓もある。
分解して保守点検



パッケージ式冷房。
一番の利点は
メンテナンス性。
ユニットごと脱着でき
修繕がしやすい



機関車安全弁
機関車で使うアアーを
制御するための器機。
分解して保守点検。



「電気連結器」
EH500は実質2車両で
連結器をつないで電送
するための部品。
断線を見つけるための
修繕。



「電気式温風暖房器」
運転台の足元にあり、
電熱器に風を通して
温風を出す。



M&Kが取り扱う鉄道部品修繕

機関車空調もクーラーとヒーターは基本的に別器機。クーラーは省スペース化が求められることから写真のように屋根上に機能を集約したパッケージ型が多い。以前の乗務員室はクーラーではなく、扇風機だった。

ヒーターは、使用電力を有効に使える電気式ヒーターが搭載されている。その他、安全弁・ワイパー・電気連結器・旋回窓などの修繕も行う M&Kでは、ただ取り外した部品修繕を行うのではなく、より車両と同等の検査も行うことを目指している。

修繕品は単体機器の為、単体動作試験に留まる。そこで「無い物は作ってしまえ！」と修繕担当する社員の発案から、品質保持のための検査機も自作している。さらに、お客様の問題提起に答える機能も盛り込んで作る。これこそがM&Kのモノづくりの良いところ!!

